

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

チームRe:ver 特集

vol. 72
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン

地域を変える高校生

Editor's note 編集後記

- 一、学校を優先すること。
- 二、部活動を優先すること。
- 三、彼氏・彼女を優先すること。
- 四、無理のない範囲で社会貢献しよう。

ちーむりばー
四ヶ条

気持ちを新たにする旅でした。

上記は、チームRe:verのルール。他にも「事務所内のお菓子は自由に食べなければならない」といったユニークなルールも存在するようです(笑)彼らがのびのびと活動を楽しめているのは、このように緩い決まりごとをしっかりと決めていることも大切な要素となっているのかもしれませんが、リバーの子達はみんな本当に素直で可愛い子達ばかり。きっとそんな彼らの純粋な気持ちが、人の心を動かし、地域を変え得る力へと becoming していくのだと思います。これから益々活動を広げていく彼らの行く先が楽しみです。

— 長谷川 (構成/写真)

活動を始めたきっかけをお伺いした部分、「今は前よりもこの町が好き!」と言う姿が印象的で、素敵でした。高校生たちの活動によって川がキレイになり、住人が住みやすくなり、皆が町が好きになっていく。プレゼン前に緊張したり、笑い合ったりする姿は素直で可愛いのですが、川や町と向き合う姿は、ひたむきでとてもカッコいいんです。皆で力を合わせて作ったこの場所が、地域の支えとなり、様々な人との繋がりになりながら、根付いてほしいと思います。

— 神倉 (デザイン)

NEXT ISSUE 次回予告 2020年3月配布予定。次回の旅も是非お楽しみ下さい。

とくしま市ほむろ TOKUSHIMA
NPO CENTER

発行月 2020年2月
号数 72号
発行 徳島市市民活力開発センター
〒770-0847 徳島県徳島市幸町3丁目71番地の1 幸町会館1階
[TEL] 088-611-3886
[FAX] 088-624-3860
[mail] npshimin@fm.nmt.ne.jp
[WEB] www.tokushima-shikatsu.com

ABOUT PASSPORT.

“PASSPORT.”それは皆さんを特別な旅へとお連れするチケット。行く先に広がるのは、団体の活動や人の想いに溢れた景色。見て、感じて、もっと知りたくなる。そんなきっかけをつなぐソーシャルマガジン。これを手にする皆様に、どうか素敵な出会いがありますように。

See you next time.

この広報誌に関するご意見、ご感想は発行元である徳島市市民活力開発センター(088-611-3886)までご連絡下さい。

とくしま市ほむろ

高校生プロジェクト

Team Re:ver

チームRe:verとは？

2018年11月に結成。小松島高校や小、小松島市全域の水環境の改善に取
ンディングを実施し、435,000円の支援
川源流の水路における生物多様性の
までの浄化」に成功している。地域のケ
するなど世代を越えた交流を通して地

松島西高校の学生たちで構成されてお
り組んでいる。2019年2月にはクラウドファ
金を獲得した。2019年12月時点で「外開
回復」及び「外開川の上流から中流付近
アハウス入居者とともに水質測定を実施
域の抱える課題解決を目指す。



水質調査をしている様子



学校でのプレゼン



水質浄化装置YOUの製作



市長へのプレゼン



YOU稼働記念式典



2018年度最終報告会

日本に誇れる美しい川の
街を取り戻したい

彼らが作りあげた水質浄化装置YOUは小松島市
内の河川環境を大きく改善しました。
彼らの想いは学校や地域、世間へと広まり、河川環
境に留まらず地域そのものの在り方をも変えようとし
ています。
「なぜこの活動に取り組んでいるのか？」
「この先にどんな未来を想像しているのか？」
今を生きるHOTな高校生たちへ、密着します。

Re:ver PROJECT

高校生による
水質浄化
プロジェクト



↑高校生一人ひとりが参加者に説明をする



↑水質浄化装置YOUが稼働している様子



↑堂々と自分たちの活動についてプレゼン



チーム Re:ver

2020年1月12日、私は小松島市港交流センターlookoへ足を運んだ。ここで「チームRe:ver(リバー)」の高校生たちが講演を行うと聞いたからだ。徳島県における様々な地域の魅力を体感してもらうための事業の一環として、県外から様々な立場の人が視察に訪れていた。緊張した面持ちで舞台へと並んでいたリバーの高校生たちからは「喃んだらどうしよう」「上手く言えるかな...」なんていう不安そうな声も少しばかり漏れ聞こえてきており、そんな様子を微笑ましく眺めていた。しかし発表が始まるとそんな様子とは打って変わって、活動について真剣に話す彼らの姿がそこにあった。



話を要約すると、小松島市は元々県下有数の水都であり、町中どこに井戸を掘っても飲むことが出来る綺麗な水城だったという。しかし現在ではそのような面影が一切感じられない程汚染されてしまった。最も大きな原因は下水道の整備の遅れ。もともと川が多い土地であるため、物理的に整備が困難であることもあり、県下全域で整備が遅れている。その課題を解決すべく立ち上がったのが「チームRe:ver」だ。彼らは水質浄化装置YOUを製作し、小松市中田町新開の水路に設置した。その装置はマイクロバブルという細かな気泡を発生させることにより、水中の汚濁物質が酸素と結びついて分解、ヘドロ中で酸素を好む微生物が増えて汚濁物質の分解を促し、水質浄化が進む仕組みとなっている。

驚くべきことに、水質の汚れの大きさを示す数値は翌日で1/4になり、週間後には1/5へ二ヶ月後には1/12以下へと変化した。当時は水路全体が真っ黒なヘドロで埋め尽くされていたが、それらは全て二ヶ月の間に茶色の活性汚泥という水質浄化をしていく泥に変化したのだ。川の自浄作用が復活することにより、住めなくなっていた魚も帰ってきた。高校生である彼らの活動が本当に地域の河川環境を改善することに成功したのだ。

講演後は彼らが製作した水質浄化装置YOUの二号機が設置されている現場の見学へと向かう。場所は「ケアハウスロイヤルロスガーデン」の目の前にある水路だ。水路を覗いてみると、この日も装置は稼働していた。「この装置はホームセンターで手に入るような素材で製作することができて、それなのに産業用の何百万する機械よりも性能がいんですよ！」とか、「元々は異臭がすごかったんですけど、その原因となっていたアンモニアが酸素と結びつくことにより...」といった具合に、機械のことや原理についても解説してくれた。ちなみに装置の材料の多くは地元建材屋さんから仕入れているそうだ。辺りを見渡してみると、リバーの高校生たちが散らばって各々で参加者への疑問に答えていた。疑問に答えられるのは彼らが活動の内容を熟知していることの証拠、受け答えもしっかりとしていた。そんな彼らの様子はとても頼もしく、楽しんでいるようにも見えた。彼らはなぜ、このような活動をしているのだろうか？本気で取り組まねばこれほどの知識を身に付けることも、実績を残すこともできなかったはずだ。だからこそ私は、主体的にボランティア活動に精を出す彼らのことを不思議に思っていた。

↓蘇った川を眺める



活動を始めたきっかけ

私はリバーの作業風景を見ようと、改めて取材へと赴いた。するとそこには、電動ドリルを片手に水質浄化装置YOU-2号機の製作に取り掛かる彼らの姿があった。現在リバーの活動は期目の活動を引き継ぎ、二期目へと差し掛かっている。一生懸命に作業に取り組みつつ、和気藹々としたその雰囲気は、ボランティアというよりは部活やサークルといった印象に近い。活動を始めたきっかけについて問うと「面白そうだった!」「先輩方がすごくかっこよかった!!」「なんか新しいことを始めてみたかった」

「代目の先輩が学校でプレゼンをしているのを見て、あるいはたまたま地域のイベントで見かけて、タイミングはそれぞれ違うが、大体こんな印象を受けて活動に参加することを決めたのだと思う。そして実際に活動をしていくうちに、すごく過す時間がどんどん楽しみなようになっていったという。」

活動に“はまる”理由

「ボランティアって、なんかやらされているもの、感あつたんですよね……」メンバーの一人が口にした言葉。ボランティアに対する率直な印象だったのだろう。しかしその認識は、活動の中で大きく変わっていった。装置の製作や地域の人との水質調査、イベントでの講演や市長と対談など、高校生とは思えないほどの活躍。このような活動を通して、彼らは何を感じたのだろうか? 「目に見えて成果が分かるのが嬉しい」

↑作業場での団楽 ここで装置の製作もしている

支える人の存在

重なることで行政や地域からの協力を得たり、そういった成果が見えることは嬉しいのだという。また、「人前で話すのが苦手だったけど、慣れた(笑)」なんてことも言っていたりして、できなかったことがいつの間にかできるようになっていたりもするの達成感があるという。そしてもう一つ、この活動の楽しいところとして挙げてくれたことがある。「地域のおじいちゃんおばあちゃんと関われるのが楽しい!」なんか手伝えることないで? って言うてくれたり、おかげで臭いなくなつたわあってお礼言うてくれたり、そういうのがすごく嬉しい!」

「僕は技術面のサポートをしようだけであ、あとはあの子らが自分で装置もつくるし、性能試験とか交渉もするし、自分の力で自分の道を切り開いていってるんだよ。町を浄化するプロジェクトなんて、大人が集まってもなかなかできんことなんです。そんな活動をしている彼らのことを誇らしく思います。」

と、このように語った。他にも地域や行政、企業やメディアなど、多くの協力者に見守られながらリバーの活動は続いていく。活動を全力で楽しみ、人との関わりを通して地域への愛着が醸成される。そんな彼らの純粋な想いは地域の人の心を動かし、町を変えていくこととしている。もはやこの活動は高校生だけのものではなく、地域でとにもとくもプロジェクトになっている。彼らなら、リバー設立当初の目標であった「小松島を日本に誇れる町にしたい!」という想い本当に叶えてしまふのかもしれない。

Team Re:ver

Member



小松 誠之丞 さん
小松島高等学校1年生



谷崎 愛菜 さん
小松島高等学校2年生



石原 慎一郎 さん
小松島高等学校2年生



松田 新史 さん
小松島高等学校1年生



森 紅志郎 さん
小松島高等学校1年生



松田 瑞季 さん
小松島高等学校2年生



鳴滝 蘭 さん
小松島高等学校2年生



上田井 菜摘 さん
小松島高等学校2年生